

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成25年度採択課題）
中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
25-4	道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発－特に下部構造物を中心として	岐阜大学 教授 本城 勇介	B
<p><研究の概要></p> <p>道路橋示方書は、H23年度改定に引き続き、数年以内に性能設計概念の徹底と、部分係数法による設計照査を全面的に導入した大幅改定が予定されている。本研究はこの改定に備え、この概念と手法を全面的に取り入れた、道路構造物への要求の高度化と多様化への対応、建設や維持補修のコストの縮減等を目指した設計照査手法を廻る諸問題に、具体的な解を示すことにより、性能設計の導入の効果が速やかに発揮されることを目的としている。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究計画の全般には大きな問題はないと判断されるものの、その進捗が懸念される。特に、既設構造物への性能設計概念に基づく性能照査法の拡張については、具体のロードマップを提示した上で、最終成果を明確に意識して着実に進めるべきである。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">1. 地盤調査の質と量に基づく検討や、新工法・新技術への対応など、かなり広範な研究を遂行せねばならず、研究体制の強化や役割分担の明確化が望まれる。2. 報告がトピック的な成果提示となっており、研究計画と研究成果の対応関係が不明確であり、体系を整理して成果をとりまとめていただきたい。			